



赤間っ子だより



3月号

令和3年2月26日
宗像市立赤間小学校 校長 早川 由洋

巣立ちゆく子どもたち 進みゆく子どもたちへ

令和2年度宗像市立赤間小学校卒業生157名。

本来ならば、将来、「私たちが小学校6年生の時に、2020東京オリンピックが開催されました」と話をしていたはずです。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、休校からのスタートを余儀なくされた史上初の最上級生ですが、学校が再開された後も、その道のりは険しいものでした。全校集会ができないため、6年生としてお手本を示す場が無い。1年生の教室に行き、給食や掃除などのお手伝いをしながら1年生との信頼関係を築く場も無い。活躍したいのに、自分たちの存在を示したいのに、その場が保障されないことは、とてもつらかったらうと思います。



しかし、今年の6年生は、まぎれもなく赤間小学校の誇りでした。6年生の礼儀正しさには、来校された方が驚かれるほどでした。掃除や給食の片付けの上手さは、他の学年の子ども達が「自分たちもこうなりたい」と羨望のまなざしで見ると値するものでした。何に対しても一生懸命だった6年生の姿は、特別な機会が無くとも常に輝いていました。それは、決して容易なことではありません。

3月17日、その6年生が卒業します。

特別な輝きをみせた自分に、自分たちに自信をもって、次のステージでも存在感を発揮することを期待しています。

3月24日には、1年生から5年生までが今年度の修了式を迎えます。

今年度、一年間で大きく成長した子ども達。いろいろなことが分かるようになり、考えられるようになり、できるようになりました。

きっと、どの子も次の学年に向けて、既に希望に胸を膨らませていることと思います。

今年度の残り1ヶ月、最後の日まで自分を高めることに挑戦し続けてほしいと願っています。



福岡県重点課題研究指定・委嘱事業

教育現場には、多種多様な教育上の課題があります。教科指導方法の質の向上はもちろんですが、生徒指導・食育・ICT・人権教育・キャリア教育等々、日頃から各学校において、それらの課題解決や改善に尽力しています。そういった諸課題の中から福岡県が重要性や切迫性を鑑み、市町村を指定し研究を委嘱するのが、福岡県重点課題研究指定・委嘱事業となります。

令和2年度より宗像市が「特別支援教育」の分野で研究の委嘱を受けており、赤間小学校がその指定校となっています。本校では既にこの研究に取り組んでおりますが、今後、城山学園そして宗像市へと研究が広がっていき、令和4年度には全県を対象として研究発表会を実施する計画です。

この事業は、福岡県の教育諸団体及び福岡教育大学からもご協力をいただき推進していますが、地域や保護者の皆様とも特別支援教育のニーズの広がりや高まりを共有しつつ、県下の特別支援教育の更なる発展に寄与していきたいと考えております。



・・・3月の主な行事・・・

日	曜	行 事	日	曜	行 事
<p>行事の詳細は 紙面にてお伝えしています。</p>					